

故日下無倫教授略年譜及著述論文目錄

(北西弘記)

年 歲

明治二一(一) 九月一日 愛知縣刈谷市元刈谷西中屋敷

專光寺に生る。

大正 元(二五) 七月三日

眞宗大谷大學卒業。

九月一日 眞宗大谷大學圖書係。

四(二八) 一月三日 眞宗大谷大學幹事(附屬圖書館

勤務)

一二(三六) 四月一日 任大谷大學學部助教授。

一三(三七) 四月一日 兼任大谷大學專門部教授。

昭和 二(四〇) 三月三十一日 辭任、大谷大學學部助教授。專

門部教授。

二(四〇) 五月三日 京都帝國大學囑託。近衛文庫の

整理に着手。

四(四二) 五月一日 神社制度調査會、調査囑託。

八月二一日 眞宗大學院主事並びに宗學院主

事。

六(四四) 一月二一日 任宗史編修所編修員。

一月二七日 任學務調査會委員。

一〇(四八) 九月一日 囑託大谷大學學部教授。

一一(四九) 四月一日 兼任大谷大學專門部教授。

一二(五〇) 四月一日 任大谷大學、學部教授(專任)。

一六(五四) 七月一日 任持董寮出任。

二〇(五八) 四月一日 大谷教學研究所囑託。

七月一日 宗學院編修顧問となる。

二一(五九) 三月二三日 講師の學階を授與せらる。

五月一日 任宗實及宗史蹟保存會委員。

二二(六〇) 一月二八日 權僧正に補せらる。

二五(六三) 四月一日 大谷大學短期大學部講師を委囑

さる。

二六(六四) 四月一日 任大谷大學教授並びに學部教

授。

六月一日 佛教史學研究室主任を委囑さる。

七月一日 安居本講に改邪鈔を講ず。

一月二三日 午前十時四十分胃癌の爲に逝

去。

御染筆院號法名「塵開院釋無倫」

を下附せらる。

一 著 述 の 部

坂東 教行信證 一卷 丁子屋書店 大正一二

大藏會圖錄 一卷 藝苑巡禮社刊 大正一二

教行信證解說 一卷 東本願寺 昭和二

眞宗各派史要 一卷 東方書院 昭和二

眞宗史の研究 一卷 平樂寺書店 昭和六

親鸞傳繪講要 二卷 東本願寺 昭和一二

改邪鈔序說 一卷 東本願寺 昭和二六

二 論文の部

(論文題名)

(發表機關)

(記載年月)

鎌倉新佛教の特徴	國民史談二ノ六	大正一五・六
觀如上人の御事	眞宗	昭和二・五
往生要集の古版本について	書物の趣味	昭和四・三
藤原時代の彌陀信仰	史蹟と古美術	昭和五
存覺上人とその義絶の真相	宗學研究	昭和六・四
本願寺の創立と覺信尼公	眞宗	昭和六・一
眞宗三門徒派の史的研究	宗學研究三	昭和六
聖德太子と親鸞聖人	文化時報	昭和六
親鸞聖人安城御影について	眞宗	昭和七・二
法然上人の眞蹟について	日出藝林第〇號	昭和七
山科御坊の創立と其の消息	日出藝林第ニ七號	昭和七
本願寺歴代宗主の御消息蒐集について	宗史編修所報第ニ一號	昭和七
蓮如時代開創の道場について	宗學研究第五號	昭和七
新出の「一枚起語文」のこと	宗學研究第五號	昭和七
聖衆來迎の思想	法藏	昭和八・一
親鸞畫像と冷泉爲恭	日出藝林	昭和八・五
夢中文並に蓮師畫像解説	法藏特輯號	昭和八・六
覺如上人御分骨について	大谷學報一六二	昭和十・四
眞宗高田門徒に於ける祕密相傳について	大谷學報一六四	昭和一〇・二
本願寺現如上人と大谷故廟迹碑	文化時報	昭和一〇・四

三河國に於ける眞宗教團の發展	六谷學報	昭和一一
開華院法住師と夢	一七ノ二一四	昭和一一
大日本國果散王聖德太子奉讚について	續眞宗大系月報	昭和一三
東本願寺の創立と河原院	大谷學報一九四	昭和一三
法華經の繪入版について	眞宗學報	昭和一四・二
學寮の創立と大坂門徒の貢獻	大谷學報二〇四	昭和一四
原始眞宗に於ける甲斐門徒の成立	大阪眞宗	昭和一四
本願寺證如とその趣味	大谷學報三〇三	昭和一五
神佛分離以前に於ける社寺本尊の史的交渉	上の方	昭和一六・四
九重御守の流傳とその種々相	佛教學協會年報	昭和一六
九重御守の流傳とその種々相(補遺)	日本佛敎史學創刊號	昭和一六
眞宗の學匠とその鐘銘	日本佛敎史學第二號	昭和一六
東本願寺草創時代の御堂僧について	日本佛敎史學第一號	昭和一七
新編御文第二通講讀	日本佛敎史學	昭和一九
中世に於ける眞宗と戒律	三ノ	昭和一九
親鸞聖人御消息「かさまの念佛者疑問」解説	佛敎史學創刊號	昭和二四
蓮如上人の東國敎化について	白雲山房發行「御消息」の内	昭和二四
外に七四種の掲載論文あるも略す。	和國九號	昭和二六